

## 月・そのうらおもてあれこれ

永井隆三郎\* 木下 宙\*

この文は国際天文学連合 (I.A.U.) の“月クレーター命名”ワーキンググループの議長 D.H. メンゼル氏から、I.A.U. の第17委員会のメンバーに、1970年4月3日配られた中間報告によるもので、ワーキング・グループでの議論の様子といったものがよくあらわれている。内容を簡単に紹介しながら、思いつくままのことなど書き流してみよう。

1961年に、月の裏面のクレーターに採用されたメンデレーフ (化学者、元素周期律表) など19名の名前は別にして、月の裏面のクレーターに対する500余りの人名と、アメリカ、ソ連の月ロケットを記念する問題とが、この報告書にとりあげられている。——月の裏側の最初の写真は、1959年USSRのルナー-3号によって撮られている。——

まず、クレーターの命名法であるが、裏側では、月の表側のようにランダムなやり方ではなくて、アルファベット順に並べるようである。つまり、月の赤道を中心に緯度幅  $20^\circ$  で区切り——南・北極の部分は  $10^\circ$  幅になるが——北極の地点から、Aで出発し、東から西へとクレーターに名前をつけていく方法のようである。ところが又、同じ頭文字のなかでは to match the larger craters with the more important names となるように並べなおすこともあって、ほぼ20ヶ程の場合がそれにあたっているようである。皮肉な見方をすれば、後世の評価度をクレーターの直径に見るなど、生きることの難かしさはおるか、死ぬことの難かしさをもおもしろされる気がする。使用されている月の地図は、米ソ両国の月ロケットによる写真をもとにしたものが用いられている。

次に、アメリカ・ソ連の月ロケットを記念する問題であるが、両国のさまざまな思惑を思わせるような雰囲気、この報告書は感じさせる。そして議論にも、やや混乱があるようである。議論の一端を紹介すれば、月に着陸したアポロ11号を記念して、月の裏側の大きな灰色の部分を「宇宙飛行士達の海」(MARE ASTRONAUTARUM) と名づけ、その近くの3つのクレーターに、オールドリン、アームストロング、コリンズと3人の乗組員の名をつける、という提案がある。これに対しては

- 1) 裏側の大きな灰色の部分は海ではなくて、単に大きなクレーターにすぎない。
- 2) 月のクレーターに現在生きている人の名前をつけ

\* 東京天文台

ることは、慣例上問題がある。

などの意見がでて、全体が一致していないようである。しかし、灰色の地点が、海であるか、クレーターであるかは別として、生きている人の名をつけたことは、この報告書にもある通り、今までにもあるようであって、1935年のI.A.U.で受け入れられた名前のなかに、M. ブラッグ (イギリス1858—1944)、K. ミュラー (チェッコ1866—1942) などの例もみられる。

最終的には、どのような提案が受け入れられるのかはまだ不明のようであるが、アメリカ、ソ連両国の微妙なバランスを考えてやるような提案があるのも面白い。「宇宙飛行士達の海」が大きなクレーターなら、それを「アポロ」と名づけ、そのまわりのクレーターに3~6名のアメリカ宇宙飛行士達の名をつける。そして、1961年に認められた「モスコウの海」(MARE MOSCOVIENSE)のまわりに、ソ連の宇宙飛行士達の名前——例えば、レオネフ (VOSHOD 2号、初めて宇宙船外遊歩行に成功)、テレシコフ (VOSTOK 6号、女性第1号宇宙飛行士)、チトフ (VOSTOK 2号、初めて一日以上の長時間飛行に成功) 等——をつける。

このように、この問題について紹介していると、まだまだきりがないのであるが、このあたりで正式にリストアップされている名前の方に話題をかえていきたいと思う。

まず最初に、アメリカ・ソ連の両国の月ロケットを記念して、プロポーズされている名前として

月の表側に  
降下する入江 (SINUS DESENSUS)——ソ連の最初の  
月ロケット軟着陸地点  
月ロケットの入江 (SINUS LINIKUS LUNIK)——ソ  
連月ロケットの硬着陸地点  
不特定数の現在活躍中の宇宙飛行士達の名前  
月の裏側に  
アポロ ( $70^\circ\text{N}$   $120^\circ\text{E}$  のクレーター)——アメリカ・ア  
ポロ計画のために  
不特定数の現在活躍中の宇宙飛行士達の名前  
があるが、これらの名前と、前にのべたところの話との  
関係は今のところはっきりしていない。

次に、個々のクレーターについての名前を見てみるとほとんどが18世紀~20世紀にかけての天文学者・物理学者・数学者などであるが、特にアメリカ・ソ連の天文

学者・ロケット工学関係者の名前が多く、半数近くを占めているように見える。国別の分布を調べてみると

アメリカ	139 人	20.2%
ソ 連	92	17.3
ド イ ツ	78	14.7
イギリス	54	10.2
フランス	34	6.4
イタリア	11	2.0
日 本	7	1.3

となっていて、アメリカ・ソ連の割り合いの大きさをものがたっている。このうちアメリカの第2次大戦の影響による他国からの亡命者を考え合わせれば、ヨーロッパ諸国、特にドイツの割り合いがふえることは明らかである。

これを月の表側の分布と比べると

アメリカ	23 人	3.7%
ソ 連	11	1.8
ド イ ツ	139	22.5
イギリス	101	16.4
フランス	99	16.0
イタリア	61	9.9
ギリシャ	61	9.9

となる。ここ半世紀ほどの間の国力の変化——ヨーロッパ諸国からアメリカ・ソ連へ——を如実に示しているようで興味深い。

全体的に見るのはこの位にして個別的にみてみると、天文学者については、皆さんがよく御存知のことと省略して、物理学者からはじめるとすれば、20世紀初頭から、物理学の分野で活躍することの評価の一つは、ノーベル賞である。ノーベル賞のもとである A. ノーベルは今回リスト・アップされているが、ノーベル物理学賞受賞者で亡くなった著名な物理学者でも意外にリスト・アップされていないのは偶然なのであろうか。月の表側に名のついた A. アインシュタイン、裏側で採用された M. キューリー、J. キューリーなどは別にして、名前の上っている受賞者としては、M. ボルン、H. A. ローレンツ、W. パウリ、W. K. レントゲン、E. シュレディンガーなど20名で、当然入っていると思っていた、N. ボーア、L. ド・ブロイ、E. フェルミ、M. プランク、ロード・レイリーなど10数名がリストからもれている。又、ステファン・ボルツマンの法則の S. フテファンは入っているのに、ボルツマンが入っていないのは死因が自殺の故であろうか。

数学者では、F. ガウスからはじまって19世紀はじめの L. オイラー、A. ルジャンドルまでは月の表側であり、それ以降の数学者がとり上げられている。D. バーコフ、P. ディリクレ、E. ガロア、D. ヒルベルト、S. コ

ワレフスカヤ、T. レヴィチヴィタ、H. ポアンカレ、H. ワイルなどであるが、ここでも、F. リーマン、K. ワイヤストラス、更には整数論の一時期をきざいた日本の高木貞治なども候補にのぼってもおかしくはないと思うのだが、日本のことが出たので7名の日本の科学者とは、天文学者の、畑中武夫、平山清次、平山信、木村栄、山本一清、物理学者の、長岡半太郎、仁科芳雄の各氏である。

この他に、ペニシリンの A. フレミングなど医学者、細菌学者、化学者として有名な人々も多くならんでいるが、表側とちがって、思想家、哲学者が少ないことも特徴的である。

変り種なのは、エジプトのロゼッタ・ストーンで有名なフランスの J. F. シャンポリオン、ミノア・クレタ文明発掘のイギリスの A. I. エバンス、鼻のシラノのシラノ・ド・ベルジュラック、神曲のダンテ、出版屋で空想科学小説家の H. ゲルンスバッハ、精神分析学の S. フロイド、アメリカの宇宙空間法 (SPACE LAW) の先駆者 A. G. ハーレイなどがある。

最後に宇宙開発の途上、大きな功績を残しながら、事故その他で亡くなった6人の宇宙飛行士 P. I. ベリヤーフ (ソ連 VOSHOD 2号)、R. B. シャフィー (アメリカ)、Y. A. ガガーリン (ソ連・最初に宇宙飛行成功)、V. I. グリソン (アメリカ・GEMINI 3号)、V. M. コマロフ (ソ連・VOSHOD 1号、SOYUZ 1号)、E. H. ホワイト (アメリカ・GEMINI 4号) の名前が上っているのをつけ加えておこう。

いろいろ、つきぬ話題を提供してくれる月裏面クレーター命名問題ではあるが、このような問題を考えるまでに、月が私達人間の身近なものとなったこととうらはらに、やはり月が「月は、ありあけの、ひんがしのやまぎはにほそくていづるほど」の風情をいつまでも持ちつづけるのを、人々は期待しているのではないだろうか。

## 学会だより

### 第3回アマチュア天文研究発表会

主 催：諏訪天文同好会

日 時：1970年10月11日(日)

場 所：長野県諏訪市 諏訪市市民センター

内容(研究発表)：太陽・月・惑星・流星・変光星・  
曆・天文器具、その他天文に関する一切の事項

来会希望者は下記事務局まで御連絡下さい。

長野県諏訪市諏訪1丁目6-20

五味一明